新緑随想

自閉症の子とうつ病の妻の心と命を守って

現東レ経営研究所特別顧問
佐々木　常　夫
（昭和38年卒）

私はＷＡＶＥ出版から「ビッグツリー―私は仕事も家族も決してあきらめない」という本を出しましたが、それは次のような書き出しで始まります。

「神様は私に試練を与えたというか、ちょっといたずらをされたようだ。私の長男は自閉症という障害を持って生まれ小さい頃から手がかかり、私は幾度となく学校へ行かなければならなかった。また私の妻は肝硬変のため何度も入院を余儀なくされ、そのため妻としての役目を果たしていないという自分への責めや障害の長男のことなどが原因で、うつ病を併発してしまい入院は四十回を超え三度の自殺未遂まで引き起こしてしまった。」

今から二十年ほど前、最初に妻が三年ほど入院したとき、子供たちは中学二年、小学六年、五年でした。ふだんの日は毎朝五時半に起き三人分の子供の朝食と弁当を作り、八時前には出社し、効率的に業務を遂行しました。

夕方六時に会社を出て七時に帰宅、急いで夕食を作るという毎日。土曜日は病院に妻の見舞いに行き、日曜日は一週間分の洗濯、掃除、買い物をする生活でした。

このときは自分なりに工夫して、この苦境を乗り切りましたが、それから十年ほどたって妻が肝硬変とうつ病を併発した時期が私にとっては一番辛い時でした。

年数回の入院となり、このころは一年のうち半分は病院生活でした。妻と自閉症の長男の世話に多くの時間を割く日々が七年ほど続きました。

さらにうつ病がひどくなって、三度も自殺未遂事件を起こしてしまいましたが、最後の自殺は本来なら亡くなっているところでした。たまたま娘が見つけ救急車で運ばれ七時間の手術で助かったのです。

当時、私は経営企画室長としていわば会社のトップマネジメントのスタッフとして多忙を極めていましたので、妻の愁訴に十分応えることができませんでした。

厳しい試練のような生活でしたが「決して負けるまい、決してあきらめない、きっといつかは良い日が来る」といつも思い改め、毎日を過ごしてきました。

その妻も二〇〇三年になってようやく回復の兆しが見えてきました。

この年は私が東レ経営研究所の社長になった年で、私は会社のトップなので自分のやり方で仕事をコントロールできましたし、妻のための時間がとれるようになったことが、彼女を安心させ長い苦しみから抜け出させることができたようです。

私が自分の家族のことをオープンにしたら身近でなんと多くの人たちが「実は私の家族も」と打ち明けてくれたことでしょうか。

この世の中は重荷を背負った人は案外多いのです。

身体障害、うつ病、自閉症、認知症、引きこもり不登校、アルコール依存症など多くの人がハンディを持っているのが現実です。

よしもとばななさんは私の本を読んで「佐々木さんにとっては愛とはひたすら責任をとることであった」と自分のブログに書いていました。そういう見方もあるのかなと思いましたが、妻も子も自分で選び自分が生んだものですし、それを守るのは人として当たり前のことだと思います。

人は誰でもが家族や仕事に対し責任を果たしたいと思っていますが、全力で頑張ってもなかなか満足するような結果に繋がらないことが多いのです。

妻はたまたま娘に見つけられ助かりましたが、少し間違えば我が家は家族崩壊の道をたどっていたことでしょう。

さまざまな人の支援や家族の助け合い、そしていろいろな偶然で図らずも私の家族はなんとか再生しつつあります。

私は人生というものに自分自身以外の大きな力を感じています。

柏木歯科
院長　柏木喜広（昭和42年卒）
副院長　柏木　了（平成８年卒）
秋田市広面土手下41－1
TEL 018－832－9162

本と楽器
今村書店
学習塾ニッケンアカデミー五城目教室
今村書店音楽教室
今村　房蔵（昭和14年卒）
今村三子雄（昭和41年卒）
今村多恵子（昭和42年卒）
今村和佳奈（平成８年卒）
南秋田郡五城目町字上町67
018－852－2303